

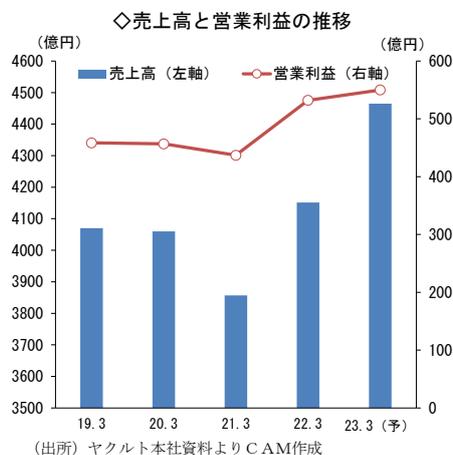
# 企業ニュース ヤクルト本社

(東証プライム : 2267) <https://www.yakult.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

## 国内で高付加価値品の販売が好調

乳酸菌飲料大手。「ヤクルト」「ジョア」「ミルミル」などの商品を展開している。店頭販売のほか、ヤクルトレディと呼ばれる販売員が直接客先へ宅配する独自の販売網を有する。22.3期のセグメント別売上高構成比は、飲料および食品製造販売91%（日本48%、米州11%、アジア・オセアニア30%、ヨーロッパ2%）、医薬品製造販売4%、その他5%。国内は宅配専用品のヤクルト1000（2019年10月発売）、店頭専用品のY1000（2021年10月発売）など高付加価値品の販売が好調。Y1000は生産資材の納品遅れにより品薄の状態が続いているが、2022年7月には生産能力を従来の2倍に増強する計画となっている。23.3期も国内高付加価値品の販売動向が注目される。



## 国内の好調で中国の販売苦戦や原料高影響を吸収

22.3期の連結業績は、売上高が4,151億円、前期比8%増、営業利益が532億円、同22%増。売上高、営業利益ともに会社計画を上回った。国内は前期比2%減収（「収益認識に関する会計基準」適用影響を除く実質では同9%増収）、同19%営業増益。高付加価値品の販売が寄与した。海外は同12%増収、同2%営業増益。中国が伸び悩んだが、円安効果に加え北米や東南アジアでの販売が好調に推移したことが寄与した。

23.3期の通期会社計画は、売上高が4,465億円、前期比8%増、営業利益が550億円、同3%増。国内は同6%増収、同8%営業増益を想定。4月は高付加価値品の販売が好調さを維持、今期も国内業績をけん引するとみられる。生産能力増強によるY1000の販売数量増も期待できよう。海外は同11%増収、同1%営業減益を想定。販売数量増や円安効果を見込む一方、原料高や経費増が影響する模様。中国はロックダウンの影響で1-3月の販売が振るわず、4-6月も同様の状況が続くとみられるが、足元では行動規制緩和の動きが見られており、7月以降は徐々に回復に向かおう。

## [株価動向・投資判断]

高付加価値品の販売増による国内業績の拡大に期待したい。自社株取得や配当増額など、株主重視の姿勢がうかがえる点にも注目。

<2267 ヤクルト 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	385,706 (▲5)	43,694 (▲4)	57,601 (▲1)	39,267 (▲1)	244.9	52.00
22.3	415,116 (8)	53,202 (22)	68,549 (19)	44,917 (14)	280.4	72.00
23.3 予	446,500 (8)	55,000 (3)	68,000 (▲1)	45,500 (1)	290.7	82.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2022/5/20)	6,980 円
年初来高値 (高値日)	7,300 円 (22/5/17)
同 安値 (安値日)	5,620 円 (22/1/19)
予想 P E R (23.3 予)	24.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,831.4 円
P B R	2.47 倍
予想配当利回り	1.17 %
(1株当たり配当金年82.00円)	
R O E (22.3)	10.6 %
発行済み株式数	17,105 万株